

令和元年度 第2回下野市社会教育委員会 議事録

- ・ 審議会等名 令和元年度 下野市社会教育委員会
- ・ 日 時 令和元年11月22日（金）午後1時30分～3時30分まで
- ・ 会 場 下野市役所3階 教育委員会室
- ・ 出席者 五月女委員長、花澤副委員長、海老原委員、齋藤委員、青木委員、橋本委員
今村委員、大塩委員、菅井委員、大垣委員、桑島委員
【欠席委員】坂口委員、稲葉委員
(事務局)池澤教育長、手塚生涯学習文化課長、浅香課長補佐、漆原主査、松岡主事
- ・ 公開・非公開の別 (公開 ・ 一部公開 ・ 非公開)
- ・ 傍聴人 なし
- ・ 報道機関 なし
- ・ 議事録(概要)作成年月日 令和元年11月29日

○会議次第

1. 開会
2. 委員長あいさつ
3. 教育長あいさつ
4. 議題
 - (1) 教育委員会への提言内容について
提言：地域学校協働活動の具体的取り組みについて
～地域の教育力の向上と地域における学校との協働体制の在り方について～
 - (2) 下野市社会教育関係団体の登録審査について
5. その他
6. 閉会

【協議事項等】

- 1 開会〈手塚課長〉
- 2 委員長あいさつ〈五月女委員長〉

台風被害が予想外に大きく、環境の変化を痛感した。自然だけでなく学校や社会を取り巻く環境も大きく変化している。皆さまの知恵を拝借して良い提案をしていきたい。
- 3 教育長あいさつ〈池澤教育長〉

台風で下野市内だけでなく周辺市町でも甚大な被害があった。市内の学校では特に石橋中の被害が大きかったが地域の皆さまの協力もあり、現在は元気に登校している。社会教育を通じて学校・地域・家庭の連携を深めて子どもたちにとって素晴らしい教育環境を作っていきたい。よろしく申し上げます。

4 議 事

(1) 教育委員会への提言内容について

提言：地域学校協働活動の具体的取り組みについて

～地域の教育力の向上と地域における学校との協働体制の在り方について～

- (五月女委員長) 前回会議からの継続協議となる。お手元の「地域学校協働活動の具体的取り組みについて～地域の教育力の向上と地域における学校との協働体制の在り方について～」の提言内容の素案を確認し、文中の表現やその内容について検討していきたい。1～5ページまでは前回会議で話し合いがなされているので、今回は6ページから検討していく。6ページから事務局からの説明を求める。
- (事務局) 資料の内容と今後の進行スケジュールについて説明。
- (五月女委員長) それでは順に進めていく。「1－1. 目的の共有化を図る」について何か意見はあるか。
- (海老原委員) 文言についてだが「地域に愛される学校」とあるが現在、「地域とともにある学校づくり」として様々な事業を進めているので、こちらの文言に統一したい。
また「空き教室」という表現も「余裕教室」に変更したい。市民の方々には「空き教室」のほうが伝わりやすいかもしれないし、学級数が減少しており日常的に使っているわけではないが、各校も決して遊ばせているわけではなく、何かしら活用ができるように努力しているので。
校内に交流の場を作り、気軽に足を向けてもらう場所があるということは良いことだと思う。
- (事務局) 「空き教室」となっているとことは「余裕教室」に文言を変更する。
- (菅井委員) 「地域の方々が集える井戸端会議の場」という文言があるが、「コミュニティの場」や「交流の場」という文言に変えてはどうか。
- (花澤副委員長) その方がわかりやすいかもしれないが、具体例として「井戸端会議のような」という意味を伝えるためにカッコ書きで「井戸端会議」の文言は残してもいいのではないか。
- (菅井委員) 今の方々に「井戸端会議」と言っても意味は通じるのだろうか。
- (事務局) ここは「地域の方々が気軽に集える交流の場」という文言に変更する。
- (五月女委員長) 提言内容については何か意見はあるか。
- (齋藤委員) グランドデザインという言葉があるが、そのグランドデザインは誰が作るのか。
- (海老原委員) 各中学校区ごとに「育てたい子ども像」が設定されており、それをもとに各中学校区ごとにグランドデザインも設定されている。周知不足で申し訳ないが、それを共通理解してもらおうということがこの提言だと考える。

- (教育長) 小中一貫教育を進めていくにあたって、まず取り組んだことが中学校区ごとに「育てたい子ども像」を基にランドデザインをつくることだった。ランドデザインの作成には3年をかけており、道徳教育が基本の柱となるが小中一貫教育の9年間の中でどんな子を育てるのかを示したものがある。
- (大垣委員) 「教職員全体がチームとして力を発揮できるよう組織としてマネジメント力を強化し」ということが書いてあるが、学校がいろんなことと連携するということは必要だが、教職員への負担感が増すといったことには繋がらないか。
- (海老原委員) この部分に関しては、地域との連携だけではなく、どんな些細なことでもチームとして協力して進めていくよう常々言って実行していることなので、急に負担感が増すといったことはないと思われる。
- (桑島委員) 個人的には、ここでの「マネジメント力の強化」とは、教職員の負担を軽減しつつ、地域との繋がりが効果的になるように運営するということだと考える。
- (大塩委員) 学校支援ボランティアは「何のために活動しているか」共通認識をもつことも大切であるとあるが、活動されている皆さんはある程度把握している。共通認識を持ち続けるとしたほうがよいのではないか。
- (教育長) 大塩委員のおっしゃる通り、活動の質の向上を図るためには、活動してもらっているボランティアの方々が活動の意図を共有して、モチベーションを維持してもらうことが重要である。
- (五月女委員長) 継続性も重要である。ボランティア個人としてもだが、世代間での継続も含めてそのように考える。高齢になってボランティアを止める方もいるが、その方もつ高い意識や考え方を引き継いでくれる後継がない。講師育成講座なども開講されているがなかなか成果があがっていない。
- (教育長) 情報発信の部分でコミュニティFMの名称が「FMゆうがお」に決まり、12月20日から開局する。提言書の名称もそのように修正する。
- (五月女委員長) 次に「1-2. 子供の安全対策に係る地域と学校の連携促進」について何か意見はあるか。
- (海老原委員) 「ファミリエ市民運動」と「ファミリエ下野市民運動」と表現が混在している。
- (事務局) 正しくは「ファミリエ下野市民運動」なので、こちらに表現を統一する。
- (五月女委員長) 身近な安全対策としては挨拶運動があるが、取り組み姿勢に地域格差があるように見受けられる。
- (青木委員) 最近は挨拶をしても返してもらえないことが多い。
- (海老原委員) 地域の方々には挨拶をしましょうと指導しているが、見慣れない方には声をかけづらい現状もある。

- (今村委員) 地域パトロールのベストを着ているときは挨拶してくれるが、それを着ていないと挨拶してくれない。下野警察署の防犯メールに登録しているが、児童への声掛け事案が多く発生しているとよくメールがあるので、各家庭で指導があるのかもかもしれない。中学生、小学生の順で挨拶に対しての反応が良い。逆に大人はほとんど反応が無い。大人がそれでは子どもに示しが見つからない。
- (菅井委員) 「学校の要望に応じて、自治会活動を推進する」と書いてあるが、この文言だと「学校からの要望があったら、自治会はその通り動かなければならない」というふうにも受け取れてしまう。「学校の要望に応じて、自治会で積極的に対応する」と文言を修正してはどうか。
- (五月女委員長) 次に「1-3. 学校活動における地域住民等の参画の場の創出」について何か意見はあるか。
- (大塩委員) 提言の中に「ファミリエ下野市民運動の周知啓発を強化する」とあるが、社会教育委員として提言するからには周知啓発を強化するをどうしたらいいのか、と聞かれたときに答えられる準備をしておく必要がある。
- (五月女委員長) 児童表彰はファミリエ下野市民運動に当てはまる。この活動をより宣伝周知することは強化につながると考える。
- (教育長) ファミリエ下野市民運動のスローガンは「当たり前のことを当たり前に行おう」というもので、これは市の教育活動の根幹に据えている。
- (事務局) 社会教育委員会議から市に対して、ファミリエ下野市民運動を啓発していこうと提言を頂き、具体的方策は提言を受けた行政側で考えていく。
- (今村委員) 青少年育成市民会議でファミリエ下野市民運動のスローガンが書いてあるクリアファイルを作っているので、12月7日(土)に開催される「子どもなんでも発表会」のときに配布したり、司会の生徒にファミリエ下野市民運動の要旨を読み上げてもらうことも可能かもしれない。
- (事務局) 今年の産業祭のときに啓発チラシを300部ほど配布したり、今月末の人権教育講演会の際にも次第やアンケートを、ファミリエ下野市民運動のクリアファイルに入れて配布する予定であり、折を見て宣伝活動はしていただいている。
- (五月女委員長) 続いて、第2部「コーディネート機能の充実とネットワーク化の促進」について話し合う。「2-1. 人材の育成と活用」だが、公民館について公民館運営審議会委員でもある齋藤委員、何か意見はあるか。
- (齋藤委員) 公民館では講座や企画がいろいろあり、それぞれ工夫して実践されている。講座の指導者として地域人材を活用することもされており、好評であるとも聞いている。公運審として今後も意識的に続けていくよう働きかけていく。
- (五月女委員長) 提言にある「生涯学習しもつけマイスター」制度というのは良いと思う。受講者自身の何かやらなければという意識化が図れる。

(五月女委員長) 続いて「2-2. 教育資源のネットワーク化の促進」について何か意見はあるか。

(各委員) 【異議なし】

(五月女委員長) 続いて「第3部 市生涯学習情報センターボランティアバンクの活用」について意見はあるか。

(海老原委員) 学校での取り組みの中で、「協力ボランティアと協議する場を定期的に設ける」とあるが、それは具体的にはどういった意味か。協力ボランティアとして多くの地域の方にお世話になっており、行事などでボランティアに入らせていただく場合、事前の打ち合わせは必ずやっている。

(五月女委員長) 私は協力ボランティアが、活動の垣根を超えて情報交換や、同じ地区で活動するボランティアと親睦を深めることだと理解しているがいかがか？

(花澤副委員長) 「2-2」の提言の中に「下野市図書館ボランティアでは、行政指導の下、各図書館ボランティアが年一回集合し、研修会・懇親会を開催している。学校支援ボランティアについても、同様の取り組みが必要である。」とある。定期的にといいと学校側の負担が大きいので、年一回くらい集まって情報交換を設けたいということであれば良いと思う。

(事務局) そういったことであれば生涯学習情報センターの取り組みの中で、「同種の活動をしているボランティア同士の交流を図り、情報を共有化する」とあるので、これについては生涯学習情報センターの取り組みとしたい。

(五月女委員長) 最後の「おわりに」の部分で意見はあるか。

(海老原委員) 3段落目の「開かれた学校」とあるが、これについても「地域とともにある学校づくり」と表現を統一してほしい。

また、各提言の語尾の表現がまちまちなので、「～を行う」「～を図る」「～をすす」という部分は、「～が必要である」「～が有効である」「～が重要である」などとすれば行政の担当課への提言として、こちらの意図が伝わりやすい。

(事務局) 語尾の統一や提言書の体裁についてはこちらで再度、整理する。

(2) 令和元年度社会教育関係団体の登録審査について

(五月女委員長) 今回登録審査を受ける団体の関係委員は退席をお願いします。

【関係委員 退席】

(五月女委員長) 事務局より説明を求める。

(事務局) 今回、「しもつけ親&子支援 わくわく広場」という団体から新規登録申請があった。申請書類、活動内容については事前に配布した資料のとおりとなっている。

本団体が当市の社会教育の一翼を担う団体として適しているかどうかご協議いただきたい。

(桑島委員) 役員名簿が簡素であり、氏名と役職しか記載がない。教育委員会に諮る際には情報的に詳しいものに差替えたほうがよい。

(事務局) その通りにする。

(花澤副委員長) 素晴らしい活動なので是非続けていっていただきたい。

(五月女委員長) では、社会教育委員会としては全会一致で可決としてよろしいか

(各委員) 【異議なし】

5 その他

(五月女委員長) まず、10月2日に行われた栃木県社会教育委員会議の報告を花澤副委員長からお願いする。

(花澤副委員長) 各市町の社会教育委員が各々の社会教育委員会議でどのような話し合いをしているのか情報交換・共有をした。

(大塩委員) 私は今回、初めてこの会議に参加させてもらったが、グループ活動をしたときに下野市の公民館活動の話題になった。公民館だけの活動にとどまらず、それが地域に広がっており、非常に素晴らしいし羨ましいとお褒めいただいた。

(菅井委員) 私から川越市で開催された第50回関東甲信越社会教育研究大会に参加した報告をさせていただく。

特に印象に残った事例が2つあるのでご紹介させていただく。1つめが浦安市で取り組んでいる回想法を使った「おもいでがたりの会」の活動である。この活動は毎月一回開催され、少年時代の懐かしい思い出などを当時の音楽や映像を流しつつ話してもらう。参加者は7～80代の方で中には軽度の認知症の方もいらっしゃるが、当時の思い出を話すとてもいきいきとしゃべってくれて、帰りには元気にこやかになって帰って行ってくれる。心の安定と脳の活性化が図れるとのことだった。主催は市の生涯学習課で運営はボランティアの協力もあるとのことだった。自分も社協の生活支援コーディネーターをしているので、その活動に活かしていきたいと思った。

もうひとつが、横浜市青葉区の事例で区の子ども支援課とNPOが支援してその地区の高校生と中学生が対象のプロジェクトで3年前に発足し、地域の魅力アップや世代間交流をしているとのことだった。この活動をきっかけに地域活動をしたいという中学生がこの地区の高校に入学してくるといった事例もあり、継続的に続いているということがすごいと感じた。支援しているNPOの話で印象的だったのが、中高生の活動には極力提案をしないようにしているという点だ。提案のつもりでも子供からすると指示と受け取られてしまうので、じっと見守るように意識しているとのことだった。社会教育の取り組みとして素晴らしいと感じた。

6 閉会